

ニュース
「東日本大震災学習
資料室」オープン
みやぎ生協

みやぎ生協は3月5日、「東日本大震災学習資料室」(以下、資料室)を「生協文化会館With」(仙台市)内に開設しました。震災の体験と、みやぎ生協の取り組みを後世に伝えることを目的に、写真や動画、関連資料を展示しています。

中央に設置された円形のシアタールームでは、震災後のみやぎ生協と全国の生協の支援活動の様子をビデオで見ることができます。また、その周囲を巡る通路は展示スペースとなっており、県内の被災状況や、震災時の緊



展示スペースの通路には、片方に写真、もう片方には全国生協からのメッセージを展示。

急対応から復旧・復興への取り組み、全国からの支援活動などを捉えた大きな写真が時系列で展示されています。見学者は音声ガイドを聞きながら、展示内容を見て学べます。

シアタールームを囲む壁には、全国から寄せられた応援のメッセージ入りタペストリーも。塩釜・多賀城・松島地域代表理事の三浦久恵さんは、「全国の生協さんから助けられなければ、ここまでこれなかったです。現在も支援が続いていて本当にありがたいです」と感謝の言葉を口にします。石巻地域代表理事の大和きよ子さんは、「写真を見ると胸が詰まります。資料室は、担当地域以外の状況もよく分かりますね」と話していました。



京都生協から贈られた「絆」のタペストリーを前に。理事の三浦久恵さん。

ニュース
全国で
復興支援ツール活用



全国で活用されている復興支援ツール。

震災発生から3年目を迎え、あらためて復興への祈りと決意を全国で共有するため、昨年に引き続き東日本大震災復興支援ツールが作成され、全国で活用されています。ツールは、バッジ、店舗掲示ポスター、震災復興支援冊子「記録」生協のつながる力」2012」募金箱です。

バッジ、ポスター、募金箱のデザインは、コープ東北サネット事業連合の2013年震災復興フレーズ「築こう未来 希望の明日へ」を使用しています。

ツールを作成した日本生協連・会



「募金箱は、職員、組合員、業者さんの目につく場所に置いています」(富山県学校生協)。

員支援本部の松居哲生は、「東日本大震災では、地震津波東京電力福島第一原発事故により、東北をはじめ、広い範囲が被災しました。また、地震だけでなく、全国各地で大雨などによる被害も相次ぎました。助け合いの精神を全国横断的に発揮し、災害に遭われた方々の支援をさまざまな形で継続していきたいと思えます。災害を語り継ぎ、風化をさせず、被災地の復興へ共に歩んでいきましょう」と復興への思いを話していました。

ツールに関してのお問い合わせは、日本生協連・会員支援本部 松居まで。
(TEL) 03-57788130